

パレアに本妙寺「桜灯籠」

地震で中止 写真パネル背景に



本妙寺のパネルと灯籠で、「本妙寺桜灯籠」の幻想的な雰囲気再現した会場＝熊本市中央区

桜の季節に熊本市西区の本妙寺参道を彩る「本妙寺桜灯籠」が、

今年は中央区の県民交流館パレアにお目見えした。熊本地震の影響でイベントは中止となったが、本妙寺を撮影した特大パネルの前に和紙灯籠と竹灯籠計90個を並べ、春の夜の光景を再現している。

桜灯籠は、花園校区自治協議会などで行う実行委が2002年から開いてきた。しかし、昨年の熊本地震で本妙寺正面の仁王門が損壊し、現在も通行禁止が続く。参道の石垣も被害を受けたため、安全面から中止とし、8日に始ま

った「桜灯籠と本妙寺展」にコーナーを設けた。

展示は、崇城大の内丸恵一講師(59)が担当。並んだ灯籠に光が入ると、辺りは幻想的な雰囲気になった。実行委の境長一郎事務局長は「桜灯籠は地域で大切に育てられてきた催し。会場は替わったが、地元を盛り上げる意味でも灯籠に灯をとすることができて良かった」と話した。

30日まで。会場では、被災後の本妙寺の写真や、復興に向けての1年間の取り組みも紹介している。観覧無料。(立石真一)